

Nippon ビジネス戦記

サンジーヴ・スィンハ



日本の良さに自信を

先日、日本人の友達がインドのデリーの地下鉄に乗っていたら、現地の人々が席を譲ってくれたそう。インドの地下鉄は日本の財政支援と高度な技術の提供によって建設され、交通事情の悪さに悩まされていたインドの人たちは、日本の協力にととても感謝している。

日本は数十年にわたり、経済力でも技術力でも、世界のトップランナーとして走り続けてきた。ただ、20世紀と比べて情報化社会が急速に進んだ今は、日本の優れた技術やノウハウがすぐに新興国に届く。日本が数十年をかけて成し遂げたことが数年単位でできるようになった。だから当然、新興国の経済成長率は高くなる。

私が心配しているのは、日本の経済成長率が低くなっていることを日本人が心配しすぎているということ。すでに大きな経済規模を持ち、社会のインフラが整備され

ていることは日本の大きな財産だし、アジアの至る所に日本の技術と資本が広がっていることは、日本がアジアの中心的存在であることを示している。その自信を失わず、日本の得意分野をさらに伸ばせば、新興国の成長が日本の成長の原動力になる。

グローバル化で経済の融合が進む中、世界で1番か2番かと競うより、国境を越えてどのように協力できるかが大切だ。他国と比べ貧富の差が小さく、治安が良いという日本の姿は新興国が学ぶべきことだし、日本がいちばん守るべきことだと思う。

本当に心配なのは経済の成長率ではなく、日本の若者が日本の良さに気付かず、自信を持つことができないまま、日本の未来像を描けなくなることだろう。

(サン・アンド・サンズ アドバイザーズ社長)